

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

東海大学病院消化器外科（食道班）での研修を終えて

千葉徳洲会病院外科

村田 一平

研修期間

平成29年11月6日～12月1日

国内外科研修応募までの経緯

私は、2007年に大学を卒業後、市中病院で初期臨床研修を受け、その間に外科の魅力にとりつかれ後期研修からは同じく市中病院で外科を専攻し修練してきた。後期研修が終わるころには、一般外科としてある程度の急性疾患の手術や癌の手術に関しても比較的難易度の低いものに関しては自分中心に手術を行っていく自信は少しずつではあるが持てるようになっていた。そこで、後期研修修了後は癌の標準治療や専門施設での手術を勉強するために神奈川県立がんセンターでレジデントとして2年間修練を行った。その後2014年から現在の病院で勤務しており、現在は臓器別な専門を持たず、いわゆる消化器一般外科として幅広く様々な疾患の外科治療に従事している。当院では胃、大腸、肝胆膵疾患に関しては病院の規模に対してある程度の症例数を保っているが、食道の手術症例に関してはこれまで少ない状況であった。しかし、消化器内科の努力もあり少しずつ症例も増える兆しが出てきた。私はがんセンターで勤務していた頃上部消化管グループにも在籍しており、食道癌手術に関しては勉強し執刀もしてきたが、全て開胸開腹での手術であり、呼吸器合併症で悩むこともあった。そこで呼吸器合併症を減らし、患者への負担を軽減させることができる可能性のある胸腔鏡下での食道癌手術を勉強したいと考えていたところ、当院院長より日本臨床外科学会の国内外科研修制度を紹介され、希望があれば応募してみてもどうかと勧められた。研修可能な病院一覧の中で、伏臥位胸腔鏡下食道切除および用手補助腹腔鏡下胃管再建術（VATS/HALS）を定型化し症例数も多い東海大学病院消化器外科を希望し応募した。期間は1週間から4週間とのことであったので、4週間を希望した。

東海大学病院消化器外科に来て感じたこと

上述したように、私はこれまで大学病院の医局には属さずに医師として働いてきたので、医局という組織に一時的にも足を踏み入れることに多少の不安はあった。しかし、実際に東海大学病院に来てみると、そのような心配事はすぐに払拭された。東海大学病院消化器外科の先生方はとても気さくな方が多く、外部から来た私をととても温かく迎え入れていただいた。消化器外科では、私がお世話になる食道班の他に、胃班、大腸班、肝胆膵班に細分化されているが、班の間に垣根はなくお互いによく連携して診療しており、若手の先生方はどの班の手術にも分担して参加しているので広い分野でかつ、深い内容の修練を積まれているといった印象を受けた。私が東海大学に来る前に抱いていた当初の不安は、初日の朝の消化器外科全体のカンファレンスに参加し、自己紹介をさせていただいたころには、この環境で研修を受けることができることに対する期待に変わっていた。

今回の研修で得たもの

食道班では、週に2日手術日が設けられており、全ての手術に参加させていただいた。手術がない日は内視鏡検査・治療、術後患者の処置や検査を見学またはご指導を受けながら担当させていただいた。

また、食道班の手術や処置がない時間は、他の班の手術にも快く参加をさせていただくこともでき、普段一般外科として診療している私にとってはとてもありがたい環境であった。

今回の研修の最大の目的である食道癌に対する手術（VATS/HALS）はまさに目から鱗であり、学ぶべきことが山ほどあった。これまで中心に行ってきた開胸手術とは違い、胸腔鏡の拡大視効果による反回神経や胸管などの構造物、またそれを取り巻く微細な神経や血管などを視認しながら手術を行うことでより繊細な手術が可能であると実感した。また、伏臥位で行うことや、人工気胸などの利点も十分感じることができた。以前に一度、小澤教授の手術に参加させていただいた経験があり、概ねの手術の流れは把握していたつもりであったが、週に2件のペースで完全に定型化された手術に参加し、疑問があれば何でも聞くことができたので非常に効率よく手術のポイントやコツを学ぶことができた。最終週の手術では、実際にHALS、胃管再建の部分は執刀させていただくことができ、見聞きするだけでは分からない難しさや細かな注意点を知ることができた。手術内容は勿論だが、術前・術後の内視鏡の評価や、東海大学で行っている術後管理法などを経験豊富な先生方に質問しながら学んだことは、今後の診療の参考になるものばかりであった。また、胃食道逆流症に対する腹腔鏡下Toupet手術にも参加することができ、教科書ではみたことはあるが、一般病院ではなかなか経験することができないような手術の実際をみることも非常に貴重な経験であった。

今回の研修期間中には、第79回日本臨床外科学会総会が東京国際フォーラムで開催された。会期中に東海大学病院消化器外科同門会が開催され、小澤教授よりその会に御招待いただいた。同門会では、幕内博康前教授をはじめ、たくさんの先生方とお話をさせていただく機会もあり大変有意義な時間を過ごさせていただいた。

## おわりに

今回、日本臨床外科学会国内外科研修制度に申し込み、東海大学消化器外科で研修させていただくことができ、たくさんの貴重な経験を積むことができた。ここでみたこと、教えていただいたことは全て今後の臨床の質を向上させるものであり、外科医としてのモチベーションをさらに高めるものであった。また、何より今回の研修期間中にたくさんの先生方と知り合い、意見交換をさせていただけたことは、私にとってかけがえのない財産となった。この4週間は大変短い期間であったが、外科医人生の中で非常に大きな4週間となった。

最後に、このような貴重な経験を積ませていただいた東海大学消化器外科の先生方をはじめスタッフの方々、私が抜けることで仕事が増えるにも関わらず、快く研修に送り出してくれた当院の先生方、このような機会を提供していただいた日本臨床外科学会の関係者の皆様に、心からお礼を申し上げたい。